

平成25年行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	脳科学研究戦略推進プログラム		担当部局庁	研究振興局	作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	平成20年度～未定		担当課室	ライフサイエンス課	ライフサイエンス課長 板倉康洋			
会計区分	一般会計		施策名	科学技術の戦略的重点化 X-1 ライフサイエンス分野の研究開発の重点的推進及び倫理的課題等への取組				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	長期的展望に立つ脳科学研究の基本的構想及び推進方策について(第1次答申)(平成21年6月)、新たなライフサイエンス研究の構築と展開(平成21年12月ライフサイエンス委員会)、第4期科学技術基本計画(平成23年8月閣議決定)、医療イノベーション5か年戦略(平成24年6月医療イノベーション会議)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	脳の発達障害・老化の制御や、精神神経疾患の病因解明、予防・治療法の開発を可能にするとともに、失われた身体機能の回復・補完を可能とする技術開発等をもたらす、医療・福祉の向上に最も貢献できる研究分野である脳科学研究について、少子高齢化を迎える我が国の持続的な発展に向けて戦略的に推進し、成果を社会に還元することを目指す。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	大学、研究機関等を対象に、実施機関を公募し、政策課題に対応して文部科学省が設定したミッションを大学、研究機関等が実施。 脳内情報を解読・制御することにより、脳機能を理解するとともに脳機能や身体機能の回復・補完を可能とするブレイン・マシン・インターフェース(BMI)の開発、脳科学研究の共通的な基盤となる先進的な実験動物リソースの開発、社会的行動を支える脳基盤の計測・支援技術の開発及び心身の健康を維持する脳の分子基盤と環境因子の解明・開発、精神・神経疾患の克服を目指す脳科学研究及び脳科学研究を支える集約的・体系的な情報基盤の構築に関する6つの研究課題と全体に対して生命倫理支援を行う課題を事業として実施。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
	予算 の 状 況	当初予算	2,390	3,590	3,487	3,488	7,988	
		補正予算	-	-	-	-	-	
		繰越し等	▲ 7	7	-	-	-	
	計		2,383	3,597	3,487	3,488	7,988	
	執行額		2,383	3,576	3,488			
執行率 (%)		100.0%	99.4%	100.0%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)
	論文数	成果実績	報	約260	約400	約480		
達成度		%	-	-	-			
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	機関数及び課題数	活動実績 (当初見込み)	機関数	28	36	38	-	
課題数		22	69	70				
単位当たりコスト	91 (百万円/機関)		算出根拠	(百万円/機関) =(平成24年度執行額:3,442百万円)/(機関数:38)				
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由				
	諸謝金	2.3百万円	2.3百万円	日本再興戦略に関する「新しい日本のための優先課題推進枠」3,000百万円				
	職員旅費	2.0百万円	4.6百万円					
	委員等旅費	3.0百万円	3.3百万円					
	庁費	0.6百万円	1.0百万円					
	科学技術試験研究委託費	3,480.6百万円	7,977.3百万円					
計	3,488.5百万円	7,988.5百万円	※表示単位未満四捨五入の関係で積み上げと合計は一致しない。					

事業所管部局による点検						
	項目		評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	○政策課題の解決に向け、関係省庁と連携、協働して戦略的に事業を推進している。具体的には医療・福祉の向上につなげるため、厚生労働省と連携した事業を進めている。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○			
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	○事業開始前に公募を行い、審査委員会において採択機関を決定している。 ○課題解決型の明確な目標設定を持った国の委託研究プロジェクトであるため、支出先の使途の把握については厳格に実施している。具体的には、全ての実施課題について業務計画書を精査した上で、事業目的に即した費目や使途であることを確認し、適切な支出を行っている。また、支出先や使途を把握し、備品等が適切に購入されているか等について、現地での確認等を含む額の確定調査を実施し、資金の流れ、費目や使途が適切であること及び効率のよい執行が行われていることを確認している。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		—			
	単位当たりコストの水準は妥当か。		○			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		○			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○			
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		—			
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	○本事業全体の円滑な実施のため、プログラムディレクター、プログラムオフィサーを配置し、目標の達成に向け、受託者へ戦略的見地から指導・助言を行っている。活動実績の指標である機関数は前年度実績を維持している。 ○当該事業で得られた成果については、成果報告会を実施する、あるいはホームページに掲載するなど、情報発信に努めている。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○			
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		○	○BMIの開発については、総合科学技術会議の科学技術重要施策アクションプランの対象施策として総務省・厚生労働省との連携・分担の下に実施することとされており、効率的かつ着実に実施している。		
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
		脳の仕組みを活かしたイノベーション創成型研究開発	総務省			
	脳情報利用障害者自立支援技術開発実現プロジェクト	厚生労働省				
点検結果	<p>○前年度と比較し、単位あたりコストは低下したにも関わらず、成果指標である論文数は2割増加し、効率的な事業運営がなされた。</p> <p>○支出先の使途の適切性及び効率性について、プログラムディレクター、プログラムオフィサーを活用し、厳格に管理するとともに、全ての委託契約について、支出先・使途を把握し、備品等が適切に購入、活用されているか等について、現地における確認等も含む額の確定調査を実施し、適切な事業運営を行った。</p> <p>○目標の達成に向けた進捗管理については、プログラムディレクター、プログラムオフィサーによる実施機関への指導助言等のほか、研究開始後3年度目に該当する課題に対する中間評価を厳格に実施し、残りの研究期間で得られる成果を見据えた研究体制や効率化について検討を行うなど、効率的・効果的な事業の推進に努めていた。</p>					
外部有識者の所見						
外部有識者による点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
事業内容の改善	<p>1. 事業評価の観点：本事業は、脳科学研究について文部科学省が設定したミッションを大学、研究機関等に委託し実施する競争的資金であり、類似事業等の観点から検証を行った。</p> <p>2. 所見：本事業は、平成21年度レビュー等の指摘を踏まえ、24年度において予算の縮減を図るなど一定の見直しを図ったことほか、研究開始後3年目の課第に対する中間評価を厳格に実施し、残りの期間で得られる成果を見据えた研究体制や効率化について検討を行うなど効率的・効果的な事業の推進を行ったことは評価するものの、引き続き、事業の効果的・効率的な実施を目指し、積算単価を見直すなどコスト削減等に努めるべきである。また、他機関等との類似事業との役割分担を明確にするために、事業内容を再点検すべきである。</p>					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
縮減	<p>本事業は脳科学委員会での議論を踏まえて課題を設定・実施してきており、平成25年度に終了予定の課題についても、計画通りの目標を達成する見込みであるため、予定通り課題を終了させ、概算要求に▲496百万円反映させた。引き続き、不断の評価等を実施し、本事業を効果的・効率的に進めていく。また、類似事業として指摘を受けているBMIの開発については、総務省・厚生労働省と調整の上、連携・役割分担の下に効率的かつ着実に実施していく。</p>					
備考						
脳科学研究戦略推進プログラム ウェブサイト： http://brainprogram.mext.go.jp/						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	0265	平成23年	0248	平成24年	0263

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

文部科学省

3,488 百万円

諸謝金 1.1百万円
職員旅費 1.6百万円
委員等旅費 0.9百万円
庁費 0.5百万円 } を含む

脳の発達障害・老化の制御や、精神神経疾患の病因解明、予防・治療法の開発を可能にするとともに、失われた身体機能の回復・補完を可能とする技術開発等をもたらし、医療・福祉の向上に最も貢献できる研究分野である脳科学研究について、少子高齢化を迎える我が国の持続的な発展に向けて戦略的に推進し、成果を社会に還元することを目指す。

[公募・委託]

A. 脳科学研究戦略推進プログラム
: 3,442 百万円
大学・独立行政法人等(全38機関)

[公募・委託]

B. 脳科学研究戦略推進プログラム支援事業
: 42百万円
独立行政法人科学技術振興機構

脳科学研究を実施している大学、研究機関等を対象に、実施機関を公募し、政策課題に対応して文部科学省が設定したミッションを大学、研究機関等が実施。脳内情報を解読・制御することにより、脳機能を理解するとともに脳機能や身体機能の回復・補完を可能とする「ブレイン・マシン・インターフェース(BMI)の開発」、脳科学研究の共通的な基盤となる先進的なリソースの「独創性の高いモデル動物の開発」、ヒトの社会性障害の解明・診断等や社会性の健全な発達促進に応用することを目標とした「社会的行動を支える脳基盤の計測・支援技術の開発」及び人間の一生に着目し、心身の健康を支える脳の機能や健康の範囲を逸脱するメカニズム等を解明することを目標とした「心身の健康を維持する脳の分子基盤と環境因子」、精神・神経疾患の発症のメカニズムを明らかにし、早期診断、治療、予防法の開発を目標とした「精神・神経疾患の克服を目指す脳科学研究」及び複雑かつ多階層な脳機能を解明するため、様々なモデル動物から発生する多種類、多階層情報による情報基盤の構築を目指した「脳科学研究を支える集約的・体系的な情報基盤の構築」に関する事業を実施。

脳科学研究戦略推進プログラムにおける課題採択における審査、研究の評価、事業の管理等の事務を支援。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

A. 大学共同利用機関法人自然科学研究機構			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費・謝金	研究者及び研究補助者	135			
その他	外注費	44			
物品費	研究用消耗品	23			
旅費	国内旅費・外国旅費	13			
間接経費		65			
計		280	計		0
B. 独立行政法人科学技術振興機構			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
業務費	支援業務実施経費	42			
計		42	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	大学共同利用機関法人自然科学研究機構	先端的遺伝子導入・改変技術による脳科学研究のための独自の霊長類モデルの開発と応用	280	企画競争	—
2	株式会社国際電気通信基礎技術研究所	日本の特長を活かしたBMIの統合的研究開発	268	企画競争	—
3	国立大学法人東京大学	社会的行動の基盤となる脳機能の計測・支援のための先端的研究開発	267	企画競争	—
4	国立大学法人東京医科歯科大学	生涯に亘って心身の健康を支える脳の分子基盤、環境要因、その失調の解明	193	企画競争	—
5	国立大学法人名古屋大学	情動の制御機構を解明するための神経情報基盤の構築	146	企画競争	—
6	公益財団法人実験動物中央研究所	先端的遺伝子導入・改変技術による脳科学研究のための独自の霊長類モデルの開発と応用（コモンマーモセットの遺伝子改変技術の基盤整備）	120	企画競争	—
7	国立大学法人名古屋大学	広汎性発達障害と統合失調症のゲノム解析を起点として、発症因に基づく高疾患の診断体系再編と診断法開発を目指した研究：多面発現的効果を有するゲノムコピー数変異（CNV）に着目して	107	企画競争	—
8	独立行政法人理化学研究所	遺伝環境統計学的相互作用大規模解析による気分障害の病態メカニズムの解明（大規模ゲノムタイピングと情報解析による気分障害の病態メカニズムの解明）	84	企画競争	—
9	国立大学法人東京大学	生涯に亘って心身の健康を支える脳の分子基盤、環境要因、その失調の解明（代謝恒常性の破綻と環境ストレスによる脳老化・変性促進の分子基盤解明、及び環境からみた脳神経発生・発達健康逸脱メカニズムの解明）	83	企画競争	—
10	国立大学法人広島大学	うつ病の神経回路—分子病態解明とそれに基づく診断・治療法の開発	71	企画競争	—

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	独立行政法人科学技術振興機構	国家課題対応型研究開発推進事業等の実施に係る支援業務	42	企画競争	—